

ふれあい 曹山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2012年7月号
(第79号)

発行人
曹山 信彦



編集委員会

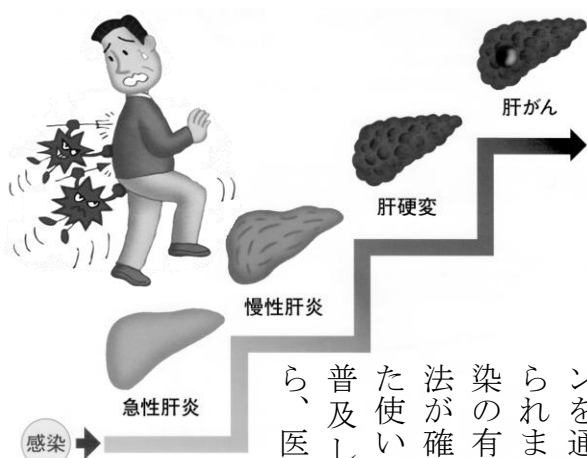


敦子 成氏
棟近 博子
西岡 陽子
赤松 真巳
福井 尚子
谷岡

C型肝炎と肝がん

C型肝炎は、C型肝炎ウイルス（HCV）と呼ばれる肝炎ウイルスに感染し、肝臓が慢性的に炎症をおこしている状態です。自覚症状はほとんどありません。病気が進行すると肝硬変、肝がんになる可能性があります。

肝がんの約80%が、C型肝炎ウイルスの感染によるものです。



C型肝炎ウイルスの

感染は、1992年以前は血液（輸血）により感染していました。1994年以前には血液製剤フィブリノーゲンを通じての感染も見られました。現在は感染の有無を検査する方法が確立しており、また使い捨ての注射器が普及していることから、医療行為で感染する事はありません。C型肝炎ウイルスの感染経路には、【以前

はあったが今はないもの】感染している人の血液を用いた輸血、血液製剤。汚染された注射器や注射針による医療行為。【現在も考えられるもの】「覚えい剤など注射器の使いまわし、入れ墨を彫る、十分に消毒されていない器具を使ったピアスの穴あけ、母子感染（感染率は低い）があります。C型肝炎ウイルスに感染すると、体はそれを排除しようとしてウ

イルスを攻撃します。その時に肝細胞と一緒に破壊してしまう為、肝臓に炎症がおこり、これが肝炎です。感染してから2週間〜1ヶ月後に急性肝炎をおこし、その後約60〜80%の人は治らずに慢性化します。いったん慢性化すると自然に治ることはほとんどなく、多くは肝硬変、肝がんへと進展していきます。肝臓は「沈黙の臓器」ともいわれ、肝炎になっても自覚症状はほとんどなく、その為、気付かないままおよそ20〜30年で肝がんへと病気が進みます。進むスピードは個人差があり、また60歳を超えると肝がんになる確率が高くなります。

病気が進むと治療も難しくなるので、早めに検査して感染していないか確認しましょう。C型肝炎の疑いがあると診断されたら、血液検査で肝臓の働きや炎症の度合い、さらにウイルスの種類や量を確認します。また画像検査（超音波検査、CT）や肝生検で病気の進行具合を調べます。治療法にはインターフェロン療法などを用



いる抗ウイルス療法と、抗ウイルス療法により十分な効果が得られなかった場合に、肝細胞が壊れる速度を遅くし、慢性肝炎から肝硬変への進展を抑える事ができる療法とがあります。兵庫県では、緊急肝炎ウイルス検査を行っています。これまで一度も検査を受けたことのない方は無料で検査を受ける事ができますので、詳しくは診察室でお尋ねください。（看護師 丸橋 節子）

